



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
11月の休館日:4(火)・10(月)・17(月)・25(火)

11月22日(土) 14:00~18:00~ **2回公演**
宝塚星組公演
指定 1階席 6,500円、2階席 5,500円
【完売しました】

11月27日(木) 19:00~
劇団四季 ミュージカル
「ジューズ・クライスト=スーパースター」(ジャポネスク・バージョン)
指定 S席 8,400円、A席 6,300円、B席 5,250円
【好評発売中】

12月18日(木) 18:30~
ロマンティック・ラブコメディ 「月の輝く夜に」
☆出演:大地真央、岩崎大、上條恒彦 ほか
指定 S席 6,000円、A席 4,000円
【好評発売中】

12月21日(日) 14:00~
第11回 ひこね市民手づくり演奏会
今回は趣向を変えて、マーラーの偉大な交響曲「復活」と、フォーレの「レクイエム」全曲に挑戦します。
自由 2,000円(当日2,500円) 【好評発売中】

12月23日(火祝) 13:30~
お楽しみコンサート 「クリスマス」
☆クリスマスの曲がいっぱいつまったコンサート。
☆小山陽子さん(フルート)、半澤真衣さん(ヴァイオリン)、西村光世さん(ピアノ)
【鑑賞無料】

1月25日(日) 14:00~
オペラ物知り講座 in ひこねvol.2 -椿姫-
☆観客席から見ただけではわからないオペラの成り立ちや秘密を、生の演奏とさまざまなエピソードや解説を織りまぜながらハイライトで楽しむ講座です。
自由 1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】

2月1日(日) 14:00~
井伊直弼と開国150年祭記念
「いい歌、いい舞、いい話 彦根今昔物語」
☆彦根の歴史や文化をテーマに物語を構成・演出! 市民文化団体の出演による彦根文化の祭典!!
自由 500円 【11月16日(日)発売開始】

2月28日(土) 15:00~
及川浩治トリオ “Bee” (びー) コンサート
☆及川浩治さん(ピアノ)、石田泰尚さん(ヴァイオリン)、石川祐支さん(チェロ) による究極のトリオパフォーマンスをご堪能ください!
指定 3,000円 【11月23日(日祝) 発売開始】

マーク: 託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク: 公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
11月の休館日はありません。

開館時間 8:30~17:00 (入館は16:30まで)

10月31日(金)~12月1日(月)
直弼発見! 巻の4
「井伊直弼の家族」
直弼はどのような家族とともに暮らしたのか。その家庭環境とともに、妻子への思いも紹介します。

▲井伊直弼和歌詠草 (子を失いし時の和歌) 【重要文化財】
観覧料が必要です

ギャラリートーク 「井伊直弼の家族」
11月1日(土) 14:00~15:00
解説: 本館学芸員 野田浩子
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

直弼のころ
幕末の大老、井伊直弼(1815~1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などに真しに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。
このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

10月29日(水)~11月30日(日)
楽焼橋形向付 井伊直弼作
井伊家の家紋である橋をかたどった自作の向付。直弼は青年時代から焼きものに興味を持っていました。

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
11月の休館日:4(火)・11(火)・18(火)・25(火)

16日(日) 10:00~12:00 ※雨天中止
フレッシュスポーツデー
ウォーキング
コース 市民体育センター周辺
集合場所 市民体育センター玄関
参加費 小学生以上1人200円
申込方法 前日までに市民体育センター窓口、電話ファクスのいずれかで申し込んでください。
その他 歩きやすい服装と靴で、飲み物を持って、参加してください。



▲昌子の婚礼調度のうち、松平家の家紋である八丁字紋を散らした膳椀類

嘉永5年(1852)8月19日、一人の女性が、花嫁行列とともに江戸外桜田にある彦根藩江戸上屋敷に向かいました。彼女の名は昌子。丹波亀山

落(現在の京都府亀岡市)の先代藩主松平信豪の娘です。彦根藩主井伊直弼のもとへ興入れしてきました。

二人の婚約が決まったのは、婚儀よりさかのぼること6年、直弼が藩主の世継ぎとなった弘化3年(1846)のことです。実は、この婚約は、井伊家の事情で、やや強引に決まった節が見受けられました。

大名の正室はしかるべき家柄、すなわち大名や公家の娘を迎えることになっていました。そのため、一般的には元服して成人するころ、すなわち15歳~20歳ごろには、ふさわしい娘のいる家と交渉し、婚約へと至ります。ところが、直弼の場合、先の世継ぎの死去により、32歳で急きよ世継ぎに取り立てられたため、花嫁探しをするには高齢で、さらに、すでに娘もいました。

このような条件の直弼にとって、縁談の成立は難しそくに思えましたが、そこに1つの縁談が持ち込まれました。

相手も、非常に条件が厳しいため、嫁ぎ先を探しあぐねていたのでした。それは、京都の宮家・有栖川宮家の娘で、将軍家の養女となっていた精姫です。当時22歳の適齢期でしたが、婚姻となると、養女とはいえ、すべて将軍の娘の格式で扱うことになり、専用の御殿を建てたり、あらゆる場面で臣下の礼をとるなど、迎える大名家の負担は膨大なものとなります。

この時、井伊家の取った行動は、素早く別の縁談をまとめ、将軍家からの話を断るというものでした。

その相手が、亀山藩松平家だったのです。この家は譜代の名門で、幕府の重職に就く者を輩出した家です。縁談相手として家柄は問題なく、前にも話が合ったようですが、少し躊躇すべき点が見られました。それは二人の年齢差です。当時、昌子は数え年で12歳、直弼との年齢差は、20歳もあります。大名の娘に縁談が来る年齢としては、早すぎはしません、父親と1

歳しか変わらない相手との話を、即決することはできなかったのです。実際に昌子が興入れしたのは、18歳の時でした。直弼の藩主就任から2年が経ち、昌子自身も成長したころ合意を見計らったことでしょう。松平家では、実家の家紋入りの婚礼調度を整えて、昌子を譜代筆頭の家へ送り出しました。

昌子は正室として井伊家の奥向きにおいて、影響力を持ち、直弼の没後、その子どもたちの養母として井伊家を支え、激動の幕末維新を生き抜いたのです。(彦根城博物館学芸員 野田浩子)

写真の作品は、シリーズ「直弼発見!」巻の4「井伊直弼の家族」で、10月31日(金)~12月1日(月)まで展示します。(会期中無休)

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

